

大人って楽しいのかな？

《小学生の部 金賞》

五日市中央小学校四年 加藤 未衣

「ちよつとまってね。」ありがたい物をしていたお母さんはとてもいそがしそうだった。わたしは、今聞いてほしいのになあと考えた。大人っていつもいそがしくて大変そうだ。だって家族のごはんを作って、せんたくやそうじをして、外での仕事もたくさんある。それなのに、お母さんはふしぎといつも楽しそうに見える。お母さんが仕事から帰って来た時にわたしがえ顔で「おかえりー。」と言うと、お母さんはわたしの百ばいわらつてくれる。そしてわたしもつられてまたわらつてしまう。大人って子どもみたいに遊ぶ時間もないのに楽しいのかなあ。そう思ったわたしはお母さんに「大人って楽しいん？」と聞いてみた。するとお母さんは「大変なこともあるけど、楽しいこともたくさんあるよ。大人になつたら分かるけえ。」と言つて、ニツコリした。そう言われて、わたしは少し、大人になるのが楽しみになつてきた。大人になるということは、ドキドキするけれど、ワクワクもする。わたしも大変なことを楽しいと思えて、思いやりとえ顔がある大人になりたい。

「成人」と「大人」

《小学生の部 銀賞》

段原小学校六年 大町 葉月

今年から「成人」が十八歳に変わった。

こんなニュースを見たとき、私はとても不思議でした。

自分の力で生活し、自分の行動の責任を自分でとる。それが私の「大人」のイメージです。自分でかせいだお金で生活することや、何か困ったことがあっても先生や親に言つて解決とならないことは、「大人」のすぐきびしい面だと思えます。私のまわりには、そんなきびしいことをこえて生活している人がたくさんいます。しかし、きびしいことを乗り越えていく力は、「成人」になったしゅんかんに身につくようなものではないはずで、だから十八歳が「大人」になれるのか、なつていいのかが疑問でした。

しかし、考えるうちに気づきました。「大人」は子供に「成人」の意味を教える時言いかえられる言葉ですが、本当は「大人」と「成人」はちがう意味があるということです。

「成人」はみんななれますが、「大人」は人生で様々なことを学んでなれるものです。私も六年後「大人」になれるよう頑張ります。

自分のために相手のために

《小学生の部 銅賞》

草津小学校六年 錫村 美聡

私は、何かを決めるとき自分から率先して、行動していませんでした。ですが、大きくなるにつれ自分から行動するようになりました。

だれかがやるまで何もしなかったり、だれかに言われてやったりと、言われたらやるという感じの私。だけど五年生の時、自分に任せられる仕事が増えた。さらに六年生になって、学校のリーダーとなった。今までは、「ありがとう」と言う立場だった自分も、一年生などから「ありがとう」と言われる立場になった。そこで、自分から行動するようになった。

大人になるにつれて、決められた仕事以外にも「だれか、やっという」と決められていない仕事も増えていくと思う。そんな時のために今、自分から行動する力をつけておきたい。

今はまだ、意識をしながら動いているけど、だんだんと、こまっている人やだれがやるか決まっていない仕事など、意識をせずに立ち上がれるようになりたい。大人になるということは、自分から行動する人だと私は思う。自分のためにも相手のためにも一歩、進んでいきたい。

社会の一員に

《小学生の部 銅賞》

庚午小学校六年 三井 悠

私は、大人になるということは、「自分も社会の一員になって、政治に参加できるようにする」ということだと思う。なぜなら、大人になったら選挙に参加できるようになるからだ。そうすれば自分の考えが少しでも政治に反映されるかもしれない。例えば、私は環境のことを考えたり、SDGsに取り組む事が、これからの世界に大切だと思っている。

また、女性の政治がもう少し増えてほしいと思っている。理由は、その方が多様な考え方の政治が行えると思うからだ。この二つを実現するにしても、国民が投票しないと始まりません。でも、今は特に若い人たちが投票しなくなってきていると聞いたことがある。私は、大きくなったら積極的に選挙に参加しようと思う。せっかく自分の意見が聞き入れてもらえるかもしれない、自分の一票で政治の方向を変えられるかもしれないのに投票しないのはもったいない。だから私は、選挙に行けて政治に参加できるといことが、大人になってできることの一つだと思う。

かっこいいおとな

《小学生の部 入選》

矢野南小学校一年 山田 瑞希

わたしはおとなになったら、みんなのからだをなおしたいです。みんなをしあわせにできるおとなになりたいからです。みんながしあわせになると、わたしもげんきになります。

みんなのからだをなおすために、としょかんでほんをよんでからだのことをしりたいです。また、かたこりをなおすきかいをつくりたいです。

きょうから、せんせいのはなしをよくきいて、かっこいいおとなになりたいです。これから、いちねんせいをがんばって、ゆめをかなえたいです。

考える人

《小学生の部 入選》

瀬野小学校三年 田中 栄都

大人になるということは、自分のことも、人のことも、考える人になるということでしょう。

ぼくは、自分のことならよく考えられます。でも、人のことは、よく考えられていないです。たとえば、姉がべんきようしているよこで、大きな音で動画を見ておこらせてしまったり、お母さんからつくえの上のかたづけとゴミすてをすることを言われても、いつも後まわしにしてわすれておこらせてしまったり、お父さんが夜きん明けでねむっているのに、さわりだり話しかけておこしてしまいます。でも、ぼくが、自分からすすんでしゆくだいやかたづけをしたり、家族の手つだいをしたら、みんなよろこぶし、みんなほめます。だから、人のことも考えるようになります。そしたら、大人になった時、人のやくに立つことがたくさんできるようになれそうです。

大人になるということ

《小学生の部 入選》

原南小学校四年 武縄 佐都

私は、大人になるということは、他の人にたよったりせず、自分のことは自分で考え、他の人の気持ちを考えることだと思えます。前に、かせんじきで、落ちていたペットボトルを拾っている人を見かけました。それを見て私は、地いきのために自分にできることを考えてやっているんだなと思い、感動しました。今の自分は、ごみが道ばたに落ちていることに気がついて、しらんぷりをして通りすぎていました。このままでは、原南の街がよごれてしまうかもしれません。なので、ポイすてされたごみは拾うことができなくても、せめて、自分が使った後のごみは持ち帰って、原南の街をよごさないようにしたいと思います。

私はたまに、ごみが風で飛ばされてしまっても、そのままにしている大人を見ます。私は、そんな大人にはなりたくないです。私はそんな大人を見て、いつもよくないなと思います。私は、そんな大人ではなく、地いきのために、活動することができる大人になりたいと思いました。

思いやりの花

《小学生の部 入選》

袋町小学校四年 橋本 莉央

赤ちゃんは、自分のしてほしい事を泣いて伝えようとします。子供になると、自分の気持ちを言葉で表せるようになり、例えば最後に一つおやつがあまった時、欲しい人でジャンケンをして決めたりする。でも、大人は「どうぞ。」と言ってゆずり合おう。

このように、子供のころは、自分の気持ちを素直に話す事が大切だと教えられるが、大人になると自分の気持ちをかくして、遠回しに相手を傷つけないように伝える事ができるようになっていく。

なぜ、大人は相手の気持ちを思いやり、ゆずれるようになるのか。それは、人間関係をスムーズにするために必要な事で、自然に身につけていくものなのかもしれない。

だから、私は、いつも相手の立場に立ってなんと言ったら良いのかを考えながら話せる大人になりたいと思う。そのやさしさが、笑顔を生み、つながっていくことで、平和な世界になると思う。

大人になったら：

《小学生の部 入選》

袋町小学校四年 古市 愛葉

わたしは、大人になるということは、世の中で人の役にたつ人になるということだと思いません。

今、目には見えない世界で動き回るウイルスで世界中の人が困っており、次々と新しい細菌も発見されています。わたしはどんなウイルスにも弱点があると思うので強くうち勝つクスリや、注しやを研究してみんながけんこうで安心できるようにしたいです。

伝記で読んだ野口英世の本に、「すべてを科学にささげ、全人類のために死んでいった。」とあり、わたしもその意志をうけついで、次々とあらわれる細菌もウイルスもやつつけることのできる医薬品を見つきたいです。わたしにできることは、学校の勉強をがんばること、先生や大人の話をよく聞くこと、理科に興味があるので科学や生物に関係する本を読むことかなあと思います。役に立つということは人を笑顔にすることだと思うので今できることをがんばっていききたいです。

スーパーマン

《小学生の部 入選》

船越小学校四年 児玉 佳奈

私は、大人になるということは、スーパーマンみたいに何でもあきらめずにがんばることだと思います。

なぜなら、お父さんだったら、毎日仕事ばかりで、「ぜんぜんねむれんかった。」と、言っていたりします。お父さんは、外であせをかきながら仕事をするから、これから夏にかけてよけいにつかれたりするかもしれない。

お母さんの方は、十二時から仕事だけど、私たちの朝ごはんを作らないといけないから、六時に起きないといけないし、私達が学校に行ったら、そうじに、せんとくに、私たちが食べた皿あらいに自分のことで朝からゴロゴロするひまもなくバタバタして仕事行って、帰ったら、また夜ごはんを出したり、せんとくをやったりふとんをしいたり朝みたいにはバタバタして私たちよりおそくねてようやく一日が終わる感じでこれが三百六十五日ずっとやるのはけっこう大へんだと思います。

大人は、自分以外のこともしないといけないしやっぱりスーパーマンだと思います。私も、スーパーマンになりたいになりたいです。

早く大人になりたい!!

《小学生の部 入選》

井口明神小学校五年 安藤 結菜

私は早く大人になりたい。大人になったら結婚し新しい家族をふやしたい。できれば子どもも育ててみたい。

大人になるということは、責任をもつことだと思う。今、私はたくさんの人に守られて育っている。私は家族に大切に育てられ成長しているのだ。例えば、私がなやんだ時にはいっしょになやみ考えてくれる。時にはしかられることもあるけどそうやって私の道をいっしょに歩いてくれているのだ。例えば今日どうしても見たい番組を見ようとしたら、母に「やることをやってから見なさい。」と言われ私ははらが立った。自分のタイミングで見たかったのに注意されてはじめはいらだっていた。が、よくよく考えてみると、その番組をとっておいで、やることがおわってスッキリしてから見た方が、気分が楽だったなと思いはじめた。いつか私は、その道を一人で歩き自分で決断したり責任をとったりしていかなくはならない。だから今、失敗から多くのことを学び自分ではんだんしていける大人になりたい。

思いえがく大人のすがた

《小学生の部 入選》

安北小学校五年 滝川 和哉

ぼくには、忘れられない大人がいます。それは、前の学校の校長先生です。

なぜなら、ぼくは自分の事を人に伝えることが苦手で、まわりの人に分かってもらえずしんどかった時、校長先生はぼくの心の中が見えているかのように、声をかけてくれていました。そんな時はいつも、気持ち が 楽 になり安心できました。またがんばろう！と思えるようにもなりました。校長先生は、いつも明るくて元気で誰にでも優しく、人気者でした。困っている人にも、同じように接してあげていて、いつのまにかその人も笑顔にさせてしまうような、温かい心をもった大人です。

ぼくのまわりにも困っている人、世界の国々で苦しんでいる人がいます。

だから、ぼくは思いました。校長先生がぼくに温かく接してくれたように、今度は自分がた く さ ん の 人 に、温かい心で今できる事をやっていき、見本となるような大人になりたいです。

私の目指す大人像

《小学生の部 入選》

五日市東小学校五年 池田 琴音

今、私が思う大人とは、仕事をして、お金をかせぎ、自分で生活ができる人だと思います。でも、それだけで大人かと言われると、ちがう気がします。

なぜかというと、たん生日がきて、

「今日から大人です」

と言われて急に大人になれるわけではないし、テレビなどで見る大人で、見ためは大人だけど、子どものようなことを言っている人を見ると、やっぱり、成人年齢に達していても、大人ではないのかなと思うからです。そういう人は「人の話をちゃんと聞いているのかな」「自分の考えを持っているのかな」と感じるがあります。

だから私は、いろいろな人の話をよく聞いて、自分でよく考え、はんだんして行動できる大人になりたいです。

でも、最初から全部ができるとは思いません。つらい思いをしたり、悲しい思いをしたり、失敗しながら、少しずつ成長していける大人になりたいです。

考える力と行動する力

《小学生の部 入選》

牛田小学校五年 佐藤 葵

私の住んでいる地いきには子どもを見守ってくれる大人がたくさんいます。登下校の時は緑のジャンパーを着ている人や旗をもっている人が信号や細い道の所に立っています。

そうやって大人の人たちに見守られていると安心して道を通ることができます。それはもし何かあった時助けしてくれる力があるからです。

大人の人たちはこれまでいろいろな事をけいけんしているからきけんな事やこまった事やどのようにしたら解決できるか知っているとと思います。それは学校で習う事ではなくて自分の頭で考えて行動しているのだと思います。そして全ての行動に責任を持つというのも、大人になるために大切なことだと思います。

私はこまっている人を助けたり守ったりする大人になりたいです。なのでこれからはいろいろなことをけいけんしていくなかで自分の頭でしっかり考えて行動する力を身につけたいです。

大人になるということは

《小学生の部 入選》

五日市小学校五年 中村 颯太

大人になるということは、人から学んだ経験は何に役立てるか考えられる人です。

ぼくがなぜそう思うかというと、マザー・テレサという人を聞いたからです。

マザー・テレサがまずしいくらしをしていた時に、それを見た近所の人々が気にかけてくれました。マザー・テレサは、そのうれしい経験を何に役立てようと考えて、今にも死にそうになった人を自分の家に連れて行き、死ぬまで見守ってあげる活動を始めました。ぼくは、人から感じたいたわりの心をそれ以上のいたわりの心で人々にこうけんするマザー・テレサの行動に感動しました。このようないたわりの心を持つ人がいないから、ウクライナ侵攻などの戦争がおこり、その戦争で人が死に、町の人が苦しむのです。

このように、マザー・テレサのように、経験を何かに役立てようとする力は、今の生活にも必要です。このような能力があれば、もう一人前の大人だと思うのです。

大人になることのむずかしさ

《小学生の部 入選》

五日市小学校五年 梶川 芽生

私は、大人になるということが、具体的に思いうかばなかったもので、家族のみんなにインタビューをしました。まず、お父さんに聞いてみると、「責任をもって生活すること」と言っていました。次に姉に聞いてみると、「自立すること」と言っていました。最後にお母さんに聞いてみると、「人のことを思って生活すること」と言っていました。この話を聞いて、私は、大人になるということは、とてもむずかしいんだなと思いました。そう思った理由は、私は、まだ働いていないし、たくさんのお金をもっているわけではありません。だから、一人で生活することは、今の私にはできないと思うからです。ただ、「人のことを思って生活すること」は、今の私にもできるかなと思いました。たとえば、こまっている人を助けたり、協力してあげたりすることは、今の私にもできるのでこれからは、大人になるために私にできることを精いっぱいがんばりたいと思います。

平等な態度

《小学生の部 入選》

己斐上小学校六年 密城 彩希

私は、だれにでもやさしく、平等に接することができません。大人になりたいです。

私は昔、気が合わない友達だけに、いけない事だと分かっているながらも少しそっけない態度をとっていたことがあります。その行動は想像以上に相手を傷つける事を知らずに。

そのような時期が去った後、私は一時期友達に自分にだけとても冷たくされた時があり、とてもいやな気持ちになっていると自分は今あの時そっけない態度をとっていた友達の立場に立っているのだと気がつきました。

そのような冷たい態度をとる、とられるの二つの立場を経験した私は、それぞれの立場に立っている人の思いや、冷たい態度をとられている側の人の心のいたみを知ることができましました。

この体験を通して、私は、これからは絶対に人によって態度を変えないようにしようというのを強く思うことができました。だれにでもやさしく接している人を見ると、やっぱりかっこいいな、と感じるので、私も将来はそのような大人になりたいです。

責任

《小学生の部 入選》

高須小学校六年 小林 渚

わたしは、大人になるということは、自分の行動に責任を持つということだと思っています。自分の行動に責任を持ち、たよられるような大人に、わたしはなりたいです。

今のわたしには、責任感があまりありません。だれかに意見を批判されたりすると、つい、言葉がにげ道へ向かってしまいます。クラスの中で、自分の意見を批判されても、それをしつかりと受けとめている子を見ると、「ああ、あの子は大人になっているな。」と思います。そのたび、自分はまだ、大人への歩を進められていない、というあせりが心の中で大きくなっていった、とても不安になります。

でも、最近、少しずつ批判を受けとめられるようになってきました。まだまだ責任感を持ってたわけではありませんが、少し、大人になったなあと思います。

わたしは、これからも自分の行動に責任を持てるように大人になるということを意識して生活していこうと思います。

私になりたい大人

《小学生の部 入選》

高南小学校六年 藤升 栄唯子

私が思う大人になるとは、自分自身の夢を叶えるということです。

私は、小さい時からあこがれるという気持ちがありました。ですが、成長するにつれてあこがれるものも、それに対して思う気持ちも変わってくると思います。私はテレビで、自分の夢を叶え、自分の好きなことを仕事にした人を見たことがあります。その人は、とても楽しそうな笑顔で笑いながら自分の仕事のことを話していました。私は、こんなふうに、笑って楽しく仕事をしたと思います。私はそのために必要なことは、努力だと思えます。どんなに小さなことでも、例えばそれが一個の時と十個積み重なった時では大きな差があると思えます。

私はどんな人でも、心が折れそうになることはあると思います。夢を叶える、仕事につくということは、私が思っている以上に大変なことです。でも私は、そんな時に、努力するからこそ、その分強くなれると思います。もし私が大人になってそんな場面があったら、努力という言葉を信じて、頑張りたいです。

相手を思いやる大人

《小学生の部 入選》

江波小学校六年 児童

私のまわりにいる大人は、相手のことを思いやって生活しています。例えば、お母さんやお父さんです。お母さんは、たまにおこりますが、それは私たちのために言ってくれていると思います。お父さんは、家族みんなのために、働いてくれます。私は、お父さんやお母さんのように、相手を思いやる大人になりたいです。しかし私はどうすればお母さんやお父さんみたいになれるのかわかりません。そこで私は目標をつくらうと思いました。例えば、手にほしい物をゆずるとか、小さい子にやさしくせつするとかです。けっして簡単ではないですが、相手を思いやる大人になるには、一つ一つこなしていく必要があると思うから、一分一秒ずつ大人に近づいていく時の中で、できるかぎりのことをしたいと思います。

私は、私のまわりに相手を思いやることのできる大人がたくさんいてよかったです。私に思いました。これからも、その人たちをお手本に、たくさんの努力をして、成人、十八才には相手も思いやる心を身に付けたいと思います。

人を支える人

《小学生の部 入選》

青崎小学校六年 大下 真輝

ぼくは、大人になるということは、人を支える存在になるということだと思っています。

ぼくのお父さん、お母さんは、ぼくのことを支えてくれる「かけがえのない人」です。

また、それだけでなく、農家の人、水道局の人、医者の人、学校の先生もぼくが生きることを支えてくれる人だと思っています。ぼくが食べること、学ぶこと、遊ぶことなど、その一つを支える人がいて、ぼくを支える人も、いろいろな人に支えられています。

「大人」がいなくなると、ぼくは、食べること、学ぶこと、遊ぶことができなくなり、やがて、「生きていくこと」もできなくなり、死んでしまいます。なので、人を支えるということとは、人が生きることを支えるということでもあると思います。

ぼくは、今、子供で、たくさんの人に支えられているけれど、ぼくも、大人になって、人のことを支える人になりたいと思います。

また、人を支える人が、一人でも増えるといいと思います。

人の役に立ちたい

《小学生の部 入選》

青崎小学校六年 児童

私は、大人になるということは、人の役に立てるということだと思っています。私の夢はエンジニアになることです。そう思っている理由は、今、生活で使っている機械などは、生活するのに役に立っていると感じています。だから、私も人が使ったときに、「役に立つな。」とか「便利だな。これがあつてうれしいな。」とか、喜んでもらえるものを作りたい、と思ったからです。

だけど、エンジニアに必ずなれるとは限らないし、もしかしたら、エンジニアではない夢にかわるかもしれません。でも、生活に役に立っているものがあることはかわりません。私たちのまわりには、他にもたくさん「人の役に立っていること」があります。また、人の役に立つのに大切なのは、人の役に立ちたいと思うことだと思っています。まだ、私がどんな大人になるかわからないけど、人の役に立ちたいという思いを持った大人になりたいと思います。

お兄さんが教えてくれたこと

《小学生の部 入選》

庚午小学校六年 小林 慶太

ぼくは最近、友達とけんかをしてしまいました。その時ぼくは、感情をおさえることができず、腹を立てていた時、通りすがりのお兄さんからある話をされ、気持ちを落ち着かすことができました。

お兄さんは、ぼくが落ち着けるように相手から少しはなれた所で話してくれました。ぼくはお兄さんにけんかになつた経緯を話しました。するとお兄さんはぼくの話に対して、共感してくれたので、少し安心しました。そして、話の最後にお兄さんは、

「もう少し大人になろうよ。」

と、言いました。ぼくは、はっとしました。感情をおさえることができず、相手に合わせてけんかをしてしまった自分がとてもはずかしいと思つたからです。

今回の経験を通して、大人になるということは、自分の感情をコントロールして気を配ることができるようになるということだと思いました。お兄さんに「ありがとう」と言えなかつたので「ありがとう」の代わりに、ぼくも周りの人に親切にしたいです。

大人になるということ

《小学生の部 入選》

宇品小学校六年 川邊 心温

大人になるということは、自立することだと思えます。

現在のぼくは、まだ自立できていません。というのも、まず朝が苦手なぼくは自分で起きようと目覚ましをセットしてねます。しかしよく朝、目覚ましがなっても目が覚めず、母が止めに来て、手を引っ張って、台所まで連れていきます。朝食を食べているとやつと目が覚めるけど、しんどくて、学校に行く準備に時間がかかります。それに比べて、母は目覚ましもせず、朝五時に起床して、朝食の準備や洗たくをしたりして、いそがしく動き回っています。母がいるからこそ、ぼくは毎日朝起きて、きちんと登校できています。

ぼくはいつまでもこのままではいけないと思っているので、母のように朝、自分で起きて、自分のことは自分でして登校することから始めたいと思います。

それができるようになったら、洗たく物をたんだり、弟のめんどうを見たりして、自分のこと以外の手伝いをして、母の負担を減らしていけたらいいなと思います。

まちがいは、おそれるものじゃない

《小学生の部 入選》

宇品小学校六年 宇根 菜々子

私が考える大人になるということは、がまんをしたり、自分から、何事にも積極的に取り組んだりしなきゃいけないことが増えると思います。なぜなら、社会に近づいていくと一人でやっていかなければならないからです。だから、何でも人に任せてばかりだといけないと思います。でも、たまには、失敗をして人に助けってもらうこともあると思います。それを絶対になくすということもできないと思います。それでも、小学生のころにたくさん失敗して、学んでおくと大人になって、失敗が少しでも少なくなると思いました。だから私は、今のうちにまちがえてもいいから、学校などでいろんなことに積極的にちようせんしたいなと思っています。しかし、やっぱり、まちがえたり、失敗してしまったりしてしまうとこわいなと思います。でも、それを乗りこえてこそが大人になるということだと思っています。だから、私は、こわがらずにまちがえるのをおそれずにいろんなことに取り組みたいようにしていきたいなと思いました。

日々の積み重ね

《小学生の部 入選》

石内北小学校六年 山名 望心

私は大人になると、信らい関係が大切になってくると思います。

それは、信らいされなかつたら、仕事をたのまれないからです。他にも、周りにいた人がいなくなつてしまつたりします。

そこで私が大切だと思ふことは、日々の積み重ねです。宿題を毎日出していたり、任せたことをちゃんと行つていたり、さいいなことでも、毎日毎日積み重ねていくことで、少しずつ、少しずつ信らいされていくと思います。子どものころから習慣づけておくと、大人になつても、信らいされる存在になつて、きつと役に立ちます。私たちは毎日少しずつ大人になつているので心も大人に近づけていこうと思います。

私から見ると、大人は何でも、どんな仕事でもこなしているように見えます。でも、実際は最初からすべてできていたわけではなくいろいろなことを積み重ねてきていたんだと気づきました。だから私も、日々、いろんなことを積み重ねていき、信らいされるような大人になりたいです。

感謝できる大人に

《小学生の部 入選》

石内北小学校六年 北野 愛翔

よく、「大人になること」を「独立する」と表現する人がいる。確かに大人は、親元をはなれ、一人の社会人として、自分の意思だけで動く。でもぼくは、そういうことではないと思う。

大人には、数々の大きな役割がある。選挙で政治に参加したり、お金をきちんと管理したりすることなどだ。これらの中には、たいてい周囲の人が関わってくれている。学校の友達関係でも同じことが言える。だれかの助けや影響があるから自分があるのだと思う。このことに気づかず、人に感謝することを忘れ、お礼も言うことができない大人を見たことがある。大人になると、自分は一人で立っていると錯覚してしまうことがあるのではないだろうか。

ぼくは、人間関係はとても大切なことだと思っている。身近な人へ感謝の気持ちを持ち、行動する大人こそ、本当の大人だとぼくは考える。それができれば、人を苦しめたり、傷つけたりすることは無くなるはずだ。ぼくは一步一步、大人に向かって成長して行きたい。

子どもの私と大人の私

《小学生の部 入選》

石内北小学校六年 松重 咲希

私が思う「大人になること」は、責任を取れて、信らitemも得られるということだと思いません。今までは二十才で大人でしたが、今年から十八才から大人になり、少し身近に感じました。最初、ニュースで聞いて「やったあ！」と思ったけど、くわしく見ると、「大人って大変なんだな」と思いました。だから、人としての当たり前がここでちゃんとできていたら、大人へ近づいていくのではないかなと思いました。私は、当たり前もできて、信らitemも得られるようなみ力的な大人・女性になりたいです。そのような大人になるために、学校で、先を見て行動したり、相手のために、みんなのためになることを積極的にしています。本当にそれが大人の私につながるのかは分からないけど、何事も小さなことをつみ上げるのみだと思うから、今からどんどん回りを見て動いていきたいと思えます。

子どもの今を大切にしながら、たくさん成長していきたいです。未来を考えるのは、とてもむずかしいから、今を考えながら、あと約六年間、過ごしていきたいです。